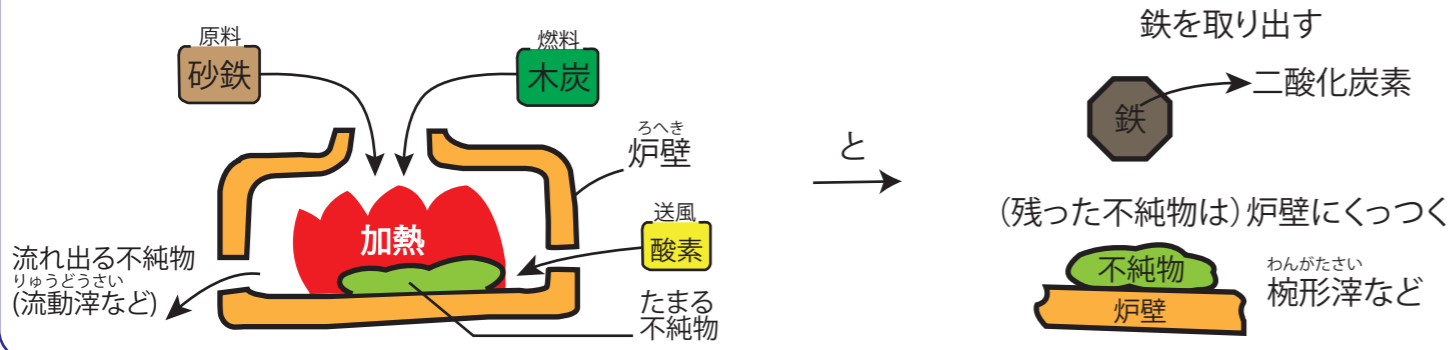


# 鍛冶ってなあに？

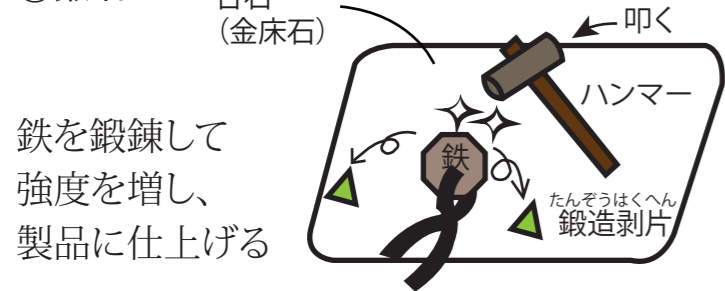
## 鍛冶の工程

「鍛冶」とは……金属を鍛錬して製品をつくること

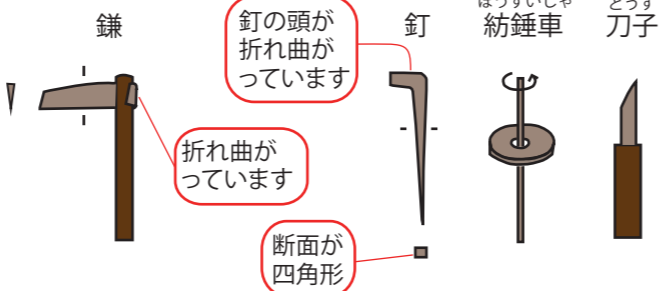
### ①製鉄 熱を加えて余計なものを取り除く



### ②鍛冶



### ③完成品例



## 墨書土器「足刀」をめぐる謎

文字や記号が書かれた土器を墨書土器と呼びます。書かれた意味はいろいろと考えられ、正確にはわからないものが多数あります。

宮下遺跡第3次調査では、「足刀」と書かれた土器が数点みついています。さて、「足刀」とは何でしょう。

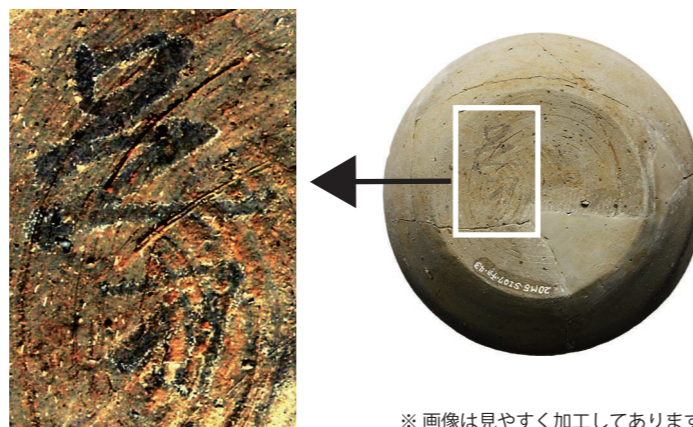
①文字の意味は様々考えられますが、「あとう」と読むと、古代の氏族である物部氏の一族「阿刀氏（安刀氏・安斗氏）」とつながります。物部氏は祖先神をニギハヤヒノミコトとする出雲系氏族で、製鉄の技術をもつ集団と考えられています。

②宮下遺跡の南西に位置する約2キロ離れた板井地区には出雲乃伊波比神社が鎮座します。武蔵国男衾郡における延喜式内社の論社とされており、出雲系氏族があがめた、古代から存在した神社と考えられます。

③宮下遺跡では、小規模ながら鉄製品を作っていた工房がみつかりました。つまり、製鉄の技術がある集団がいたこととなります。

これら3つの事柄からは、「物部氏」というキーワードが浮かび上がります。物部氏は、古代武蔵国では入間郡に勢力があったことがわかっており、出雲乃伊波比神社内には摂社として中氷川社、天神社があり、入間郡の延喜式内社（中氷川神社、物部天神社）とのつながりがみてとれます。

したがって、「足刀」の墨書から、宮下遺跡には物部氏の一族、阿刀氏の人々が住んでいたのかもしれない。



※ 画像は見やすく加工してあります

# みやした いせき 宮下遺跡

- 遺跡見学会資料 -

平成28年8月6日（土）

宮下遺跡は江南台地上に立地する縄文時代後期（約3300年前）と奈良・平安時代（約1400～1100年前）の集落遺跡です。これまで3次にわたる発掘調査により、多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などの集落の痕跡が発見され、縄文土器・土師器・須恵器・鉄製品などの道具類が数多く出土しています。1次調査では溝跡からふいごの羽口が出土し鍛冶工房の存在が想定され、さらに3次調査出土の墨書土器から「足刀」の文字を集団のしるしとする人々がいると考えられてきました。

今回の調査では、調査区全面にわたって所在する竪穴建物跡群から、集落がさらに広がるのが分かり、また、鍛冶工房跡が見つかったことにより、製鉄の技術を持った人々の集落とわかったことから、周辺遺跡との関係より江南地域（古代の男衾郡）の開発にかかわる重要な遺跡であることがわかってきました。

遺跡見学会では、遺構や遺物の見学を通して、古代の情景に思いを馳せていただければ幸いです。

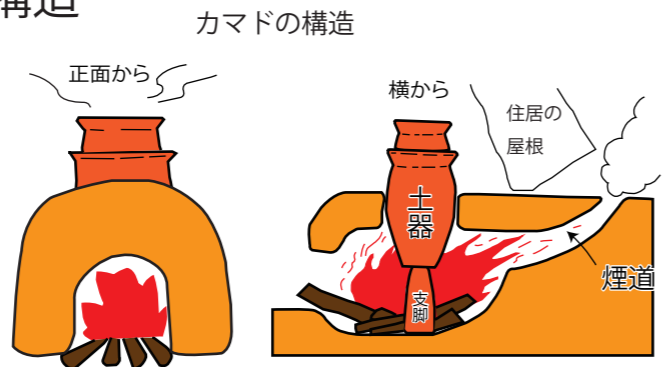


主催：熊谷市教育委員会 熊谷市立江南文化財センター  
協力：株式会社ヤオコー

熊谷デジタルミュージアムの市内の文化財日記では最新情報を随時更新中  
<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.him>



たて あな たて もの あと  
① 竪穴建物跡とカマドの構造



「竪穴建物」とは、地面より掘り下げた床面が、柱などで支えられた屋根で覆われるつくりになっています。写真の第2号竪穴建物跡は、柱穴が見つからなかったため、床面直上に柱を立てていたか、柱を使用しないつくりだったのかもしれませんが。「カマド」は古代のキッチンです。右の模式図のようなつくりになっています。煙は屋外へ出すため、煙の通る煙道は壁の外にとびだしています。

かじ こう ぼう あと  
② 鍛冶工房跡

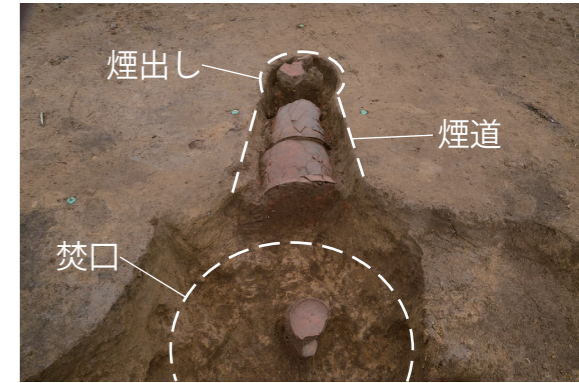


鍛冶炉拡大



鍛冶工房跡では、台石（金床石）と鍛冶炉・炭置き場などがみつかりました。炉の底は、高温により青色でかたく焼きまっています（還元化）。また、鉄滓（鉄くず）や鍛造剥片などの、鉄製品をつくる途中でできる遺物もみつかり、生産が行われていたことがわかります。

えん どう  
③ カマドの煙道



煙道に土師器の甕を利用した珍しいカマドが発見されました。ふつうは素掘りのものが多いようです。煙道が長めで特徴的なカマドです。



はっ くつ たて あな たて もの あと  
④ 発掘ってどうやるの？（竪穴建物跡の場合）

1. 遺構の検出



遺構を見つけるため、表面を薄く削って、土の色の違いをはっきりさせます。土の色やかたさで遺構があるかを判断します。

2. 遺構の掘削



遺構に十字のあぜを残して、掘っていきます。あぜは、遺構の埋まり方を見極めるために残しておきます。

3. 遺物の出土



遺構の底（床面）に近い遺物を出した状態です。遺物により、遺構があった時代が判明するのです。

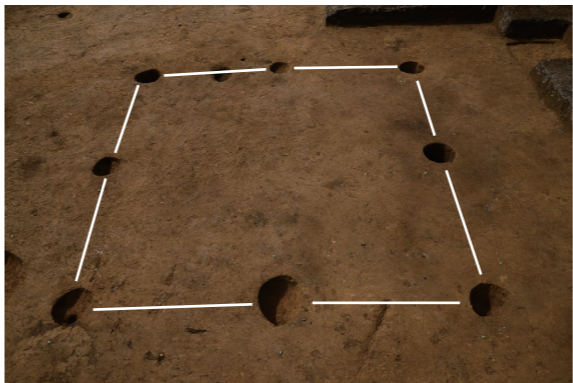
4. 遺構完掘



掘り上がった状態です。調査は、遺構を掘るだけでなく、写真や図面などの記録を細かくとっていくことも目的です。



ほっ たて ばしら たて もの あと い ど あと  
⑤ 掘立柱建物跡・井戸跡



「掘立柱建物」は地面に穴を掘って柱を立てた建物です。倉庫や住居と考えられます。



「井戸」はとても深い穴です。掘り上げるのが大変です。みつかった井戸は、いずれも素掘りのものです。地下水脈まで掘ったものではなく、写真は2×2間（1間=約180cm）のものです。浸透してくる地下水をためて汲んでいたものと考えられます。

